

短 報



横浜市内のモーテルに発生したダニについて

Mite Explosion in a Motel of Yokohama

青木 淳一*

Jun-ichi AOKI*

1985年6月、神奈川県横浜市鶴見区内にあるモーテルにおいて、ダニの大発生があった。建物内のダニ発生については、一般家庭、学校、映画館、倉庫などの例が報告されているが、モーテルの例は始めてであったので、同年7月初旬にそのモーテルに赴き、調査を行なった。

モーテルの構造は鉄筋コンクリート3階建であり、2階と3階が客室となっていて、合計24室ある。1985年4月に完成、営業を始め、同年6月27日にダニが発見された。掃除人の話によると、24の客室全室に発生しており、毎日手ぼうきで掃き集めて処分しても、翌日はまた多数のダニが見られたという。

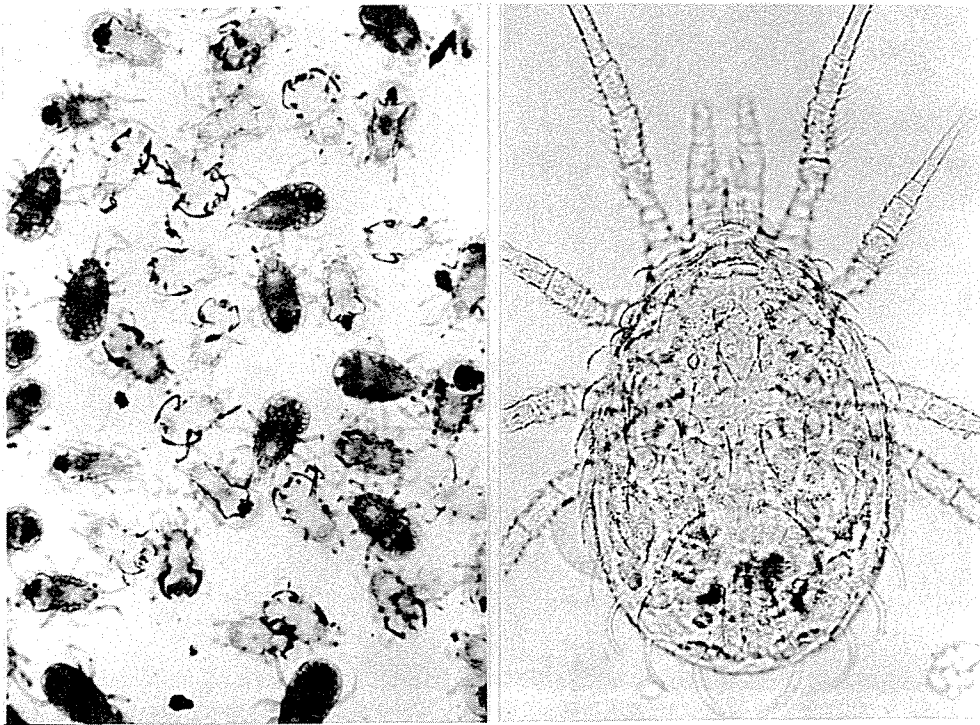


図1 横浜市内のモーテルに大発生したマツノカザリダニ *Kleemannia pinicola* ISHIKAWA.

* 横浜国立大学 環境科学研究センター 土壌環境生物学研究室
Department of Soil Zoology, Institute of Environmental
Science and Technology, Yokohama National University,
Yokohama 240.

(1987年6月30日受領)

筆者が調査に行った日にも、多くの客室にダニがみられた。ダニはベッドや床上にはほとんど見当らず、枕もとの鏡の前の台の上に数百頭が発見され、その大部分は生きて這いまわっていた。また、洗面所の鏡台の上にも多くのダニが見られた。ダニが見いだされた場所には、同時に微小な甲虫の一種（多くは死体）が多数発見された。

約300頭のダニを採取して持ち帰り、検鏡して調べたところ、ヤドリダニ目カザリダニ科に属するマツノカザリダニ *Kleemannia pinicola* ISHIKAWA であることが判明した。本種は体長0.4mm内外、淡褐色のダニで、現在の知見では日本特産、本州・四国に分布し、自然界の落葉や腐葉土の中に自由生活を営み、他の微小な虫を捕食していると考えられている。いわば、土壌性のダニ類の一種であり、このような種が、なぜモーターのような建造物内に大発生したのか、極めて異例なことと思われ、興味深い。一般に、家屋内のダニの大発生においては、コナダニ類あるいはヒョウヒダニ類が中心であり、それらを捕食するツメダニ類やヤドリダニ類が少数ながらそれに加わってくるのがふつうである。今回のケースのように、捕食者であるヤ

ドリダニ類の一種だけが大量発生したという例は知られていない。このダニの餌となるであろうコナダニ類がいないか、室内や板壁の裏などを調べたが、コナダニ類の発生はみられなかった。では、このマツノカザリダニは何を栄養源として、このような大量繁殖をしたのであろうか。

現段階で考えられることは、次のとおりである。ダニと同時に発見された微小甲虫は、帝装化成株式会社虫害研究室の田中和夫博士にお願いして調べていただいた結果、ヒメマキムシ科に属するクビレヒメマキムシ *Cartodere constricta* HUMMEL であることがわかった。この甲虫はカビを食するものであることから、おそらく新築間もないモーターのコンクリートの水分により、壁の裏側部分にカビの発生を招き、そのカビを栄養源としてクビレヒメマキムシが繁殖し、その卵あるいは幼虫を餌としてマツノカザリダニが増殖したと考えられる。

このような甲虫とダニが特にモーターに大量発生した理由としては、建物の性質上、太陽光の取り入れ、通風などが、他の建物に比べて少なく、室内の湿度が高まっているためと思われる。